

⑦ 新しい技術で生活を便利にする (IT・暮らし)

- 農改センターや図書室などの利用、災害時の地域の情報共有をIT化する。IT利用が苦手な人にはサポートをする。
- 新潟市の図書館貸出サービスをネットで利用し、民間の宅配サービスで本の取り寄せや返却ができれば、図書室はなくてもよい。学習室などの居場所があればいい。

⑧ 歴史・文化を守り創造する (文化・芸術・祭り・イベント)

- 地域のイベントや祭りなどは継続していきたい。地区を上げて祭りを開いてはどうか。
- 大江山のガイドを増やしたい。特に子どもたちが自分の地域を知って自慢できるようになるとよい。
- 高校生も農改センターを自由に使ってほしい。
- 世代交流を活性化する話し合いの機会をつくってはどうか。

⑨ 大江山のシンボルとして拠点になる (地域の一体感)

- 農改センターに愛称をつける、スポーツの祭典を行う、イベントを行う、防災拠点とするなど地域の核になる施設として活用する。
- 大江山には地域の核となる施設やシンボルがないのではないか。新旧の住民が交流できる方策があるとよい。
- 子育て機能が不足しているので充実させる。子どもが遊ぶスペースや、保育相談、親同士が交流できる居場所と仕組みが必要だ。
- 生涯学習に関する情報発信を行い、活動の交流を促し、支援する公民館の機能が重要。利用者に意見をもらい、集いやすくしたい。
- 農改センターに防災拠点としての機能も集約するのであれば、老朽化している建物を早急に建て替える必要があるのではないかと。
- 世代交流を活性化する話し合いの機会をつくってはどうか。
- 農改センターはスリッパでなく土足で入れるようにし、トイレは広い洋式にするなど、誰にでも使いやすく整備する。
- 農改センターや憩の家は、誰でも気軽に公平に利用できるように、若い世代の意見を聞きながら利用規定や管理体制を整え、利用者を増やす。
- 農改センターや憩の家を、若い世代も利用しやすい名称に変更する。誰でも自由に使えることをPRする。
- 農改センターや憩の家には多世代が利用できる多目的な機能を集中させたい。その方がコストを抑えられるのではないかと。



《その他》

- 自治会費は各地区で差があり、用途を明らかにする必要がある。新旧の住民間で、自治会に対する共通理解を育む対話が求められている。
- 新潟市は子どもの数を減らしたいのか増やしたいのか、方向性を明確にしてから議論した方がよいと思われる。
- 財政負担軽減よりも、法人税の負担率を減少し、儲かる企業を増やすのがよい。
- 新潟市立図書館や中央区役所は行きづらく、駐車場も狭い。
- 複数の除雪業者の除雪のやり方を工夫してほしい。
- 阿賀野川河川敷は補強工事中だが、大雨による法面の浸食が心配。大江山は周辺よりは海拔も高く、田んぼもあるので水害には強いと思われる。
- 他地区の公民館を見学して参考にしたい。
- 資料は言葉が難しく、説明されても理解できない。

みなさんのご意見やアイデアをお寄せください。
いただいたご意見は、次回3月のWSの検討内容に反映させます。

みなさんの
アイデア
お待ちしております!



ご意見・お問い合わせはこちらまで

大江山地域実行計画コミュニケーション事務局

電話 025-382-4619

郵便 〒950-0195 江南区役所地域総務課あて (住所不要)

FAX 025-381-7090

電子申請 「かんたん申込み」サイト (右の二次元コード)



新潟市 財産経営NEWS 広報紙 第3号

一緒に考えませんか？ 公共施設のこれからを / 大江山地域のまちづくり

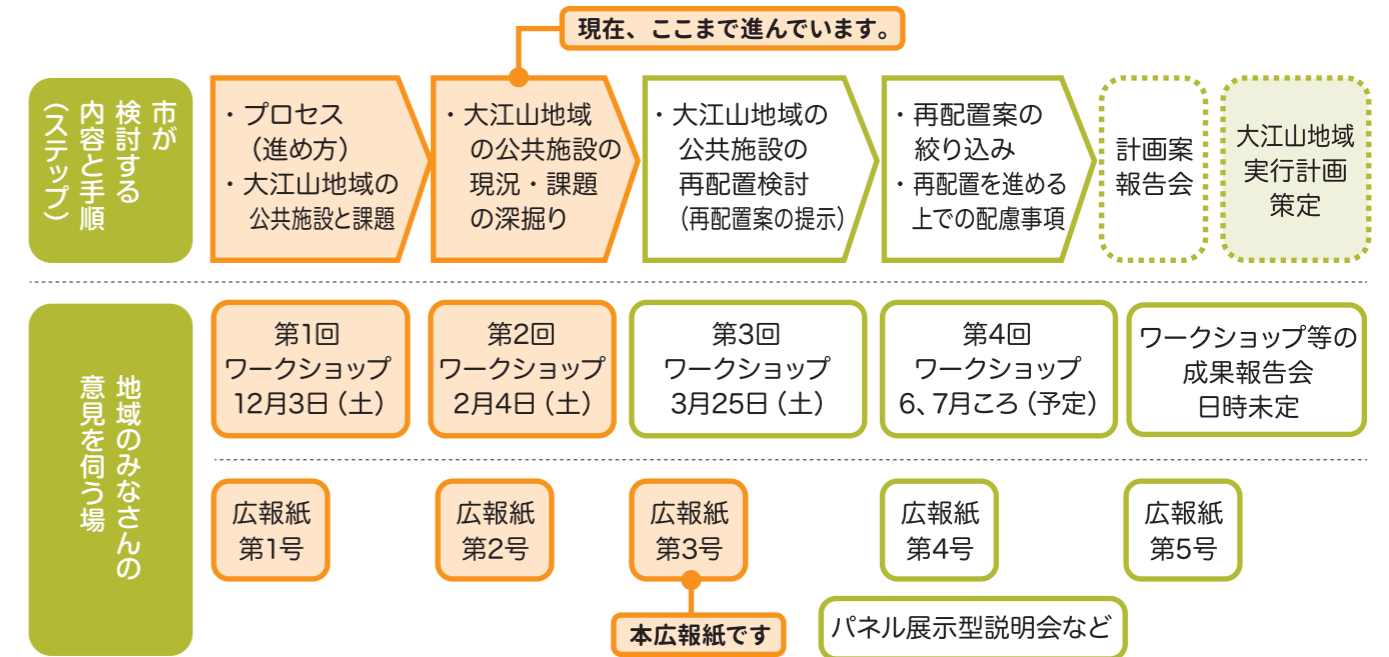
[発行者] 大江山地域実行計画コミュニケーション事務局
江南区地域総務課 ☎025-382-4619 財務部財産活用課 ☎025-226-2387
令和5年3月発行

新潟市では、「財産経営推進計画」に基づき、地域の身近な公共施設については、地域のみなさんと市が協働で、そのあり方について検討しています。

大江山地域では、地域の活動拠点である大江山農村環境改善センターが大規模改修の目安となる時期を迎えたことを機に、大江山地域の公共施設のあり方について、地域にお住まいのみなさんと市が共に考えるワークショップ (WS) を令和4年12月から進めています。

大江山地域の公共施設のあり方について検討を開始しました!

第1回WS (令和4年12月3日開催) では、多くのご意見をいただきました。よりよい地域別実行計画を策定するため、第2回の検討内容をご意見に込められた想いや公共施設の課題をさらに深掘りする回に変更しました。これによりWSの回数を1回追加し、全4回で検討していくことになりました。



WSだけでなく、広報紙やパネル展示型説明会 (オープンハウス) など、地域のみなさんのご意見を伺う様々な機会を設けていきます。市は、いただいたご意見をもとに、地域の公共施設の将来のあり方を示す「大江山地域実行計画」を策定します。

江南区親善大使
「姫ちゃん」

大江山地区出身
越後姫のキャラクター



第2回WSではさらに深掘りした話し合いが行われました。詳細は次ページからご覧ください。



第2回WSの様子 大江山農村環境改善センターにて

WSの概要

第2回 令和5年2月4日 (土) 午前9時~正午

会場 大江山農村環境改善センター

参加者数 31名

資料 当日の資料は市ホームページ (右の二次元コード) に掲載しています。



第1回ワークショップ (WS) では「こんな大江山になったらいいな」という理想の将来像と、大江山地域の公共施設ごとの課題や解決策 (アイデア) を話し合いました。理想から現状を見つめ直し、課題解決のために大切にしたい9つの視点が浮かび上がってきました。

第2回WSでは、この9つの視点を手がかりに、**財政負担を減らしながら地域課題の解決につながる計画にする**ためには、どう手を打てばよいか、より深く語り合いました。

※「大江山農村環境改善センター」は「農改センター」、「老人憩の家」は「憩の家」と略記します。

こんな大江山になったらいいな

- 阿賀野川や緑豊かな自然を、幅広い世代が交流と遊びと癒しの空間として活用するまち。
- 先人から受け継いだ歴史や伝統を、生かしながら楽しむまち。
- 多世代交流でき、誰もが生涯現役で生き生きと楽しく安心して住み続けられるまち。
- 人々が笑顔でお互いを思いやり、声をかけあうまち。
- 若者や子育て世帯にとって安心して生活しやすく、若者や子どもが増えて元気あるまち。
- 豊かな自然と、流通、産業の拠点を併せ持ち、今後の発展が期待できる全国に誇れるまち。
- 新旧の住民が活発に交流・コミュニケーションのできるまち。

地域課題を解決するために大切にしたい視点

- ① 誰もが自分らしく活躍できる (福祉・高齢者・若者・居場所)
- ② ビジネスの挑戦を応援する (産業振興)
- ③ 心も体もウキウキ動きたくなる (スポーツ・健康)
- ④ 学びあい成長を喜びあえる (子育て・教育・生涯学習)
- ⑤ 持続可能にする 財政負担を減らす (空き空間・部屋利活用・アクセスしやすい立地・財源生み出す)
- ⑥ 人とのつながりで安全・安心を守る (防災・セーフティーネット)
- ⑦ 新しい技術で生活を便利にする (IT・暮らし)
- ⑧ 歴史・文化を守り創造する (文化・芸術・祭り・イベント)
- ⑨ 大江山のシンボルとして拠点になる (地域の一体感)

第2回ワークショップで出された意見 (抜粋)

一つのご意見に重複する視点があるものは再掲しています。

① 誰もが自分らしく活躍できる (福祉・高齢者・若者・居場所)

- 子どもから高齢者まで住民同士が交流できる機能を大切にしたい。多世代交流のレクリエーションや茶の間などを開催できる場を残してほしい。
- 高齢者が得意料理を教えたり、子どもたちに昔話を聞かせるなど、みんなが自分らしさを発揮し、活躍できる場を設ける。
- 農改センターや憩の家は、施設利用のPRに力を入れる、若い世代も利用しやすい名称に変更するなど、誰でも利用しやすい施設にしてほしい。
- 農改センターには多世代が利用できる多目的な機能を集中させたり、有料化したりする方が維持管理コストを抑えられるのではないか。
- 農改センターはスリッパでなく土足で入れるようにし、トイレは広い洋式にするなど、誰にでも使いやすく整備する。
- 農改センターや憩の家は、誰でも気軽に公平に利用できるように、若い世代の意見を聞きながら利用規定や管理体制を整え、利用者を増やす。
- 図書室には学習室や、子育て中の親子や高齢者向けの読み聞かせの場など、幅広い世代が安心して過ごせる明るくて広い居場所が必要。
- 図書室の場所はわかりづらいが、立地は大江山の中心でよい。
- 憩の家の風呂はやめて民間の温浴施設を利用してもらうのはどうか。

② ビジネスの挑戦を応援する (産業振興)

- 大江山の農産物を販売する朝市ができるスペースや、地区内の店舗や事業所が経済活動を行える場所を農改センターや憩の家に確保してほしい。
- 法人税の負担率を減らし、儲かる企業を増やし、優良企業の誘致を行う。



③ 心も体もウキウキ動きたくなる (スポーツ・健康)

- 農改センターの多目的ホールを残し、予約なしで使える開放日や時間帯を設けて利用しやすくする。
- 他地区のコミュニティハウスでは小さいスペースで卓球をしている。研修室などの小スペースでも多様な使い方をできる

ようにする。

- 地区内の公園や桜並木を活かし、ウォーキングコースやマップを作成し、大江山全体を歩いて楽しめるようにする。
- 農改センターで開催されてきた文化とスポーツの祭典を継

続したい。

- 一人暮らしの高齢者にとっては、歩いていける距離に人と話せる場があることが必要。
- 高齢者と子どもの交流の場をつくり、元気が出る場にする。

④ 学びあい成長を喜びあえる (子育て・教育・生涯学習)



- 子育て機能が不足しているので充実させる。子どもが遊ぶスペース、保育相談や親同士が交流できる場所と仕組みが必要だ。
- 農改センターや憩の家に子どもが過ごせる場や世代間交流できる機会を設けて、子どもたちには地域の中に学びの場があることが大切。
- ひまわりクラブの過密な環境を改善することが必要。
- 農改センターに高齢者から学ぶ場、多世代交流できる場があるといい。

- 生涯学習に関する情報発信を行い、活動の交流を促し、支援する公民館の機能が必要。
- 公民館の利用者に意見をもらい、集いやすくしたい。
- 図書室はテーブルとイスがあれば今の部屋でなくともよい。学習室や読み聞かせの場など、多世代が利用できる明るくて広い居場所としての機能が必要。
- 図書室の蔵書を増やし、新刊を揃えてほしい。
- 図書室が現在ある場所はわかりづらいが、立地は大江山の中心にあってよい。
- 農改センターはスリッパでなく土足で入れるようにし、トイレは広い洋式にするなど、誰にでも使いやすく整備する。
- 農改センターや憩の家は、誰でも気軽に公平に利用できるように、若い世代の意見を聞きながら利用規定や管理体制を整え、利用者を増やす。
- 農改センターや憩の家を若い世代も利用できるようにして、名称を変更するなど、誰でも自由に使えることをPRしてほしい。



⑤ 持続可能にする 財政負担を減らす (空き空間・部屋利活用・アクセスしやすい立地・財源生み出す)

- 農改センターや憩の家は施設維持費の増大や利用者の減少が気になる。利用料の徴収や、利用しやすい仕組みづくり、稼げる企画を民間に委託するなどしてはどうか。利用者を増やし、今ある機能は全て残したい。
- 農改センターの駐車場は大きなイベント開催時に不足する。駐車場の規模を検討し、柔軟な運用ができるようにしてほしい。周囲の樹木の剪定や白線の引直しなど、場所や駐車位置を分かりやすくすることも必要だ。
- 図書室は住民が本を持ち寄る仕組みを取り入れたい。シルバー人材センターを活用していること自体は問題ない。
- 新潟市の図書館システムを活用できれば、蔵書機能はなくても学習室があればいい。
- 施設を減らし集約することは必要だが、農改センターや憩の家は、送迎バスを整備するなど、アクセスしやすい交通手段の確保が必要。
- 憩の家を幅広い年代で利用できるよう、コミュニティ施設と一緒にした複合施設に再編する。
- 大江山農協の施設跡に住民が活動できるホール施設をつくり、自治会館も併設する。
- 市の主要施設は8区に分散して建てるのはどうか。図書館、スポーツ施設などは市内に1施設ずつにすれば、経費削減できる。図書館はネット利用と安価な宅配集荷サービスがあれば渋滞の緩和にもなるのではないかな。
- 憩の家はどのような利用ができるのか、知る必要がある。

⑥ 人とのつながりで安全・安心を守る (防災・セーフティーネット)

- 一人暮らしの高齢者が気軽に歩いて立ち寄れる地域の茶の間のような場所は必要だ。
- 憩の家の使い方や名称を若者にも考えてもらい、子育て世代や若者も使える場所として活用するとよい。
- 農改センターに防災拠点機能も集約するなら、老朽化している建物を早急に建て替える必要があるのではないかな。地区全体で災害時を想定した避難計画や情報共有について検討するとよい。
- 大江山は安全な地域だと思うが、防犯カメラの設置や、登下校の見守りや「あいさつ運動」を続けていくのがいいだろう。

